

秋田県健康づくり審議会 感染症対策分科会
新興感染症部会 議事要旨

日 時：令和 8 年 2 月 2 日（月） 15:30～17:00

場 所：WE B 会議（Google Meet）

出席状況：部会委員 19 名中 15 名出席

1 開会

2 あいさつ

3 報告

(1) 感染症発生状況について

(2) 感染症予防計画に基づく「医療措置協定」締結状況について

(3) 新興感染症対応強化事業（研修）について

(4) 新型インフルエンザ等疑似症患者・検体搬送、検疫措置訓練について

報告 (1)：感染症発生状況について

(事務局 健康環境センター 児玉研究員)

2025 年の感染症発生状況のトピックと最近の流行状況について説明します。

- 百日咳：2018 年以降で最多の 1,083 件の届出がありましたが、9 月下旬以降は減少しています。7～18 歳が全体の 64%を占めました。
- 伝染性紅斑（リンゴ病）：2025 年 5 月頃から急増し、過去 10 年で最多となりましたが、現在は減少傾向です。
- マイコプラズマ肺炎：2025 年 6 月頃から急増し、10 月上旬にピークを迎えましたが、直近は減少しています。
- インフルエンザ：例年より早く流行期に入り、第 47 週に過去 20 年で最大の報告数となりました。直近でも B 型の検出等により再増加しています。
- 新型コロナ：2025 年夏にピークがありましたが、現在は比較的低い水準です。ただし直近で微増しており注意が必要です。

(武田部会長)

ただいまの説明について質問のある方はお願いします。

(武田部会長)

救急外来でインフルエンザ B 型や感染性胃腸炎（コロナ含む）が多い印象ですが、感染性胃腸炎のウイルス等の情報はありますか。

(事務局 健康環境センター 児玉研究員)

感染性胃腸炎は全保健所管内で増加しており、第4週は前週比1.8倍です。集団発生としてノロウイルスやサポウイルスが報告されています。

(武田部会長)

他に質問はありますか。嵯峨委員お願いします。

(嵯峨委員)

2点伺います。4月に定点数に変更された影響をどう見るべきか。また、マイコプラズマと百日咳のマクロライド耐性について県のデータがあれば教えてください。

(事務局 健康環境センター 児玉研究員)

定点数の変更は国の検証に基づき影響がない範囲で減らしたのですが、基準値等についてはまだ検証段階です。

(事務局 健康環境センター 木内部長)

マイコプラズマと百日咳の薬剤耐性検査は、県環境センターでは特段実施しておりません。

(嵯峨委員)

公表データでは、百日咳のマクロライド耐性菌は全国平均80%以上に対し、東北北海道は6割台と低く出ています。マイコプラズマは40~50%が耐性菌というデータがあります。

(武田部会長)

黒木委員、何かありますか。

(黒木委員)

週報を見ているのですが、百日咳が減ってきてほっとしています。

(武田部会長)

佐々木重喜委員、いかがですか。

(佐々木重喜委員)

診療現場の実感としても、この冬の傾向が反映されていると感じます。

報告(2): 感染症予防計画に基づく医療措置協定締結状況について

(武田部会長)

続いて医療措置協定締結状況について事務局から説明をお願いします。

(事務局 保健・疾病対策課 武藤専門員)

令和7年12月末現在の締結状況を報告します。

- 病床確保：流行初期、初期以降ともにほぼ目標を達成しています。
- 発熱外来：流行初期以降の達成率が75%です。平時の研修や訓練の負担がハードルとなっており、引き続き締結を働きかけます。
- 自宅療養者等への医療提供：訪問看護が目標の7割弱の状況です。
- 検査体制：PCR検査機器のコストや人材不足により、流行初期以降の目標達成率は57%にとどまっています。
- 宿泊療養施設：目標を達成していますが、地域バランスを考慮し追加締結を目指します。

(武田部会長)

各医療圏で締結状況に大きな差はありますか。

(事務局 保健・疾病対策課 武藤専門員)

大体どの医療圏も同じような状況になっています。

(伊藤委員)

準備ありがとうございます。流行状況や感染力に応じて柔軟に対応できるようなマニュアルやハンドブックの検討をお願いします。

(加藤委員)

経済界としても、医療受け入れがスムーズに行き行動制限等がなくなることを期待しています。

(佐々木修委員)

協定に基づき、自宅等への医薬品提供がスムーズに行えるよう今後も連携をお願いします。

(武田部会長)

小児が中心となるパンデミックが起きた場合、収容施設やベッド数が限られているため、パニックにならないよう対応を考えておいていただきたいです。

(事務局 保健・疾病対策課 武藤専門員)

小児中心の流行時は、改めて締結医療機関と相談し、柔軟に対応できる体制を整えたいと思います。

報告(3)：新興感染症対応力強化事業研修について

(武田部会長)

次に研修事業について事務局から説明をお願いします。

(事務局 保健・疾病対策課 石井副主幹)

昨年度より実施している研修の状況です。

- ・実績：感染制御指導者育成研修(累計120名)、社会福祉施設等向け研修(累計575名)を実施しました。
- ・内容：Web講義と実地研修(PPE着脱、シミュレーション)のハイブリッド形式です。県オリジナルのイラスト教材作成や受講管理の一元化を行いました。
- ・今後：令和8年度に向け予算要求中であり、地域支援ネットワークの基盤構築を目指します。

(武田部会長)

三浦委員、いかがですか。

(三浦委員)

障害者施設において、コロナの記憶が薄れがちなので、定期的なフォローアップが必要と感じています。

(武田部会長)

高齢者施設の代表の萱森委員はいらっしゃいますか。

(事務局)

本日は欠席です。

(武田部会長)

嵯峨委員、お願いします。

(嵯峨委員)

「秋田の感染症に知恵を出し合う会(WE-AID)」としても協力しています。500名以上の参加は素晴らしいですが、施設の総数を考えるとまだ道半ばです。研修を通じて連携が生ま

れることに大きな意味があります。

(事務局 保健・疾病対策課 石井副主幹)

評価指標（アウトカム）についても、現場が困らない、集団発生が長引かないといった視点で先生方と検討していきたいです。

(嵯峨委員)

研修を受けた方が周りに伝える、支援活動に生かすといった点もアウトカムとして評価できると思います。

報告（4）：新型インフルエンザ等疑似症患者検体搬送・検疫措置訓練について

(武田部会長)

最後に訓練について事務局から説明をお願いします。

(事務局 保健・疾病対策課 石井副主幹)

令和8年1月14日に実施した訓練の報告です。

- ・ 想定：海外からの貨物船員が新型インフルエンザ疑似症と判断され、船川港から秋田大学病院へ搬送する。
- ・ 内容：実動訓練（アイソレーター搬送、検体搬送連携）と振り返り討議。89名が参加しました。
- ・ 課題：情報共有ツールの検討（電話以外の手段）、特殊資機材（アイソレーター）の操作習熟、組織的な対応能力の維持などが挙げられました。

(武田部会長)

仙台検疫所の熊谷委員はいらっしゃいますか。

(事務局)

退席されています。

(武田部会長)

阿部委員、お願いします。

(阿部委員)

見学しました。今回は港から大学病院への搬送でしたが、今後は市中の病院で発生し転院が必要になるケースなど、異なるパターンでの継続的な訓練を期待します。

(事務局 保健・疾病対策課 石井副主幹)

机上訓練や部分的な訓練も含め、積み重ねていきたいと考えます。

(阿部委員)

当院でも令和8年度に大規模な訓練を計画しています。

(武田部会長)

伊藤委員、お願いします。

(伊藤委員)

10年前に秋田空港で検疫所と合同訓練を行いました非常に有益でした。今後も検疫所との連携を続けてください。

(武田部会長)

嵯峨委員、お願いします。

(嵯峨委員)

多職種がグループワークを行い、顔の見える関係を作れたことが有意義でした。将来的にはシナリオなし(ブラインド)の訓練なども視野に入れつつ、秋田のペースで進めていければと思います。

(武田部会長)

消防の立場から舟木委員、いかがですか。

(舟木委員)

秋田市消防本部では昨年9月に検疫所と救急搬送の覚書を締結しています。来年度以降、検疫所との訓練を考えていたので参考になりました。

その他・閉会

(武田部会長)

全体を通じて何かご意見はありますか。なければ、本日の議事は終了です。今後の備えをお願いします。

(事務局)

武田部会長、ありがとうございました。これもちまして閉会いたします。